

②子どもの館

■1■ 考え方

<子どもたちが作る、子どもたちのための、子どもたちの場>

- ・幼児～高校生の自己表現、社会参画のモデル実践研究とノウハウの形成、プログラム化
- ・幼児～高校生の居場所づくりのモデル実践研究とノウハウの形成、プログラム化
- ・子どもを中心とした地域活性化のモデル実践研究とノウハウの形成、プログラム化
- ・学童期、思春期の子どもに対する大人の養成と第三層への供給
- ・中・高校生の自主活動の活性化支援
- ・児童館、学童保育クラブとの緊密な連携
- ・子育て支援プラザの分館機能

子どもたちが、ひとつの居場所として、学校や家庭とは違う、充実した時間を仲間や家族と過ごせる場所とする。
子どもたちは、大人から与えられた世界で、与えられた時間を過ごすのではなく、自分たちの自由にできる世界で、自由にできる時間を過ごす。

大人は、子どもの自由な世界、自由な時間を尊重する力を身に付ける。

そういう場として、子どもの館を捕らえなおし、各ゾーンの機能も、スタッフやサポーターの果たす役割も変化させていく。

ここで自身の力を垣間見た子どもたちと、子どもの力の片鱗を知った大人たちは、自分たちの住む町や家庭にその芽を持ち帰り、育てる。

そのための支援を行うことも、本館の重要な役割とする。

このような理念に沿って子どもの側から事業を考えたとき、「あそび」「コミュニケーション」「自己表現」「自己肯定感」がキーワードとなる。

事業計画は、これらのキーワードを意識したものとする。

また、思春期の居場所を意識した事業となっているため、思春期に起きる性や体、心の問題が発生することが予測される。適切な対応のため、相談窓口の機能を持たせ、他機関との適切な連携をはかる。

■2■ 各ゾーンの機能変更

1. 全体の雰囲気

現状の、賑やかな音楽、響き渡る電子音、原色系の派手な色使い、点滅する光源は、子どもの五感の発達に非常に悪影響を与えるので、コストのかからない方法で、できるかぎり低減する。くつろいで長時間居られる雰囲気の場所に作り変えていく。

音、光に関しては、ノーコストで低減できるが、色については、装飾の撤去などでできる範囲でスタートする。

らんらんらんど撤去と同時期に、全面的な内装の変更を行い、五感を育むにふさわしい内装に変更する。

2. ふしぎ探検、チャレンジスポーツ

子どもたちを中心とした、企画チームが月替わりで担当し、このアトラクションを10倍楽しめる工夫をする。月ごとに面白さを競うコンテスト形式とする。

スタッフによる変化の工夫を子どもたちに手渡すことで、子どもたちの発想の表現場所とする。

また、チーム作業とすることで、子どもたちの間に深い関係を作り出す。

スタッフ、サポーターは、企画チームの支え役にまわり、子どもたちと向き合う力を付けていく。

3. まちかど探偵→こどもの館探偵団

用意された答えを早く探すラリーのような形式ではなく、子どもたちが想像力を駆使して遊ぶようなものにする。(参考：「まちをあそぶ」アフタフバーバン編)

まち忍者、まち探検の小規模版。

大人は、遊びの時間に居る子どもと一緒に遊ぶことを学ぶ。

団体利用者向けや、休日の時間指定のプログラムとして企画しなおす。

4. あそび工房

主に、幼児から小学校中学年までを対象として、親子で遊べる場所とする。

ホールで開催する、「おもちゃとあそびの講演会」と連動したあそびができる場所とする。

現在、スタッフは、自分たちで工夫した工作を子どもたちに教えて作らせるという形態をとっているが、講演会、ワークショップを通して、スタッフ自身がさらに学び、子どもたちの遊びを豊かにする力を磨き、それを実践する場とする。工作材料をそろえた有料工作(10円～100円程度)を充実させる。(参考：木村研さんの手づくりおもちゃシリーズなど)

作ったあと、飛ばしたり走らしたりして遊べるものを増やし、プレイルーム未使用のときには、思い切り遊べるようにする。

コンピューターゲームなどの、一方通行的な遊び道具は撤去する。

積み木など、子どもが遊びの世界を広げていけるおもちゃに変更し、スタッフは、大人が子どもと遊ぶときのモデルを来場者に提示することを意識して遊ぶ。

工作に必要な牛乳パック、スチロールトレイ、紙コップの回収もする。

5. キッズハウス

子育て支援プラザ分館の位置づけ。

スタッフやサポーターは、子育て支援プラザスタッフと、同様の研修を受けた、子育て支援サポーターが当たる。

利用料金、会員パスポートなどの利用制度も共通とする。

6. プレイルーム

多機能ルームとして活用する。

①遊び場

なにも使用してないときは、あそび工房で作ったおもちゃでの遊び場所。

②託児室

マット、おもちゃ等を備えて託児室に使えるようにし、ホールのイベントなどの際に、託児室として使用する。

③講座室

会議用のテーブル、イスを揃え、講演会やワークショップにも使えるようにする。

④遊びプログラム

体を使った遊びをスタッフで研修して習得し、団体利用時や休日に1時間程度の遊びのプログラムを実施する。(指導：矢幡道子さん、熊丸みつこさんなど)

⑤中高生への解放

夕方からは、中高生のダンスなどの練習場として解放する。

7. ホール

子どもたち自身や子どものための表現活動、芸術活動の拠点、として活用されるように主催事業や事業誘致で、多様に運営する。

託児つきの講演会、中高生に対する講演会、中高生と大人の討論会の会場として使う。

中高生の自主クラブ的な活動の拠点、市民活動の拠点ともする。

舞台芸術は、北九州芸術劇場との連携を想定する。

講演会、ゲストトークなどで、市内の他の施設との連携を図る。

以下のような事業を定例的に行う。

①遊びとおもちゃの講演会	毎月1回土曜
②キッズシアター	隔月1回日曜
③こども講演会	隔月1回日曜
④カズ山本館長の野球教室	隔月1回日曜
⑤中学・高校演劇・音楽もちまわり発表会	隔月1回日曜
⑥ゲストトーク・中高生しゃべり場	隔月1回土曜
⑦オープンマイク	隔月1回土曜
⑧バンドライブ	隔月1回土曜

これらのイベントと連動して、舞台練習が必要なものは、減免して積極的に利用を促す。

学校の長期休暇には、中・高校生を対象としたイベントを開く。

連続性があり、中・高校生の興味のあるテーマにじっくり取り組めるような企画、自主性が発揮される企画を実施する。

企画には、中高生のサポートスタッフを起用する。

企画例

- ①春休み連続ゲストトーク 「仕事ってどうよ？」
- ②夏休み連続ワークショップ 「語り尽くそう！性と生」
- ③7夜連続イブニングライブ 「僕たちの7日間ライブ」

8. HOW!? 広場

中高生、市民のくつろげる場、居座っても良い場にする。

HOW!? 広場からホール、イベント広場に到る展示可能な壁面は、絵画、写真などの展示場とし、中学・高校の美術部、漫画研究会、写真部などのクラブ活動や自主活動をしている市民の発表の場として無料で開放する。

9. スタジオHOW!?

現在の貸室機能を維持。

ここの利用者を中心に、定例のバンドライブを運営していく。

10. らんらんらんど(撤去)→あそびBar

ボールプール、有料遊具は早期に撤去する。

オープンスペースにテーブルとイスを置いた汎用的な広場とする。

一角にカウンターをもうけ、テーブルゲーム、カードゲーム、ボードゲーム、パズル、囲碁・将棋、けん玉、コマなどのゲーム、おもちゃ類の貸し出しをする。

絵本、児童書、あそびに関する図書、解説書を備えた図書スペースも併設する。

幼児から小学生、中高生、大人まで、小集団や家族単位で遊び、くつろげる場とする。

異世代交流の場、中高校生の居場所ともなる。

大人、特に父親が子どもたちと真剣に遊べる遊びを紹介する場。図書も「パパが選んだ絵本コーナー」を作り、特に父親が子どもに関わることを意識した場所にする。

ここで貸し出すゲーム類は、同じものを売店で販売し、家庭に遊びを持ち帰ってもらう流れを作る。

団体利用者の昼食・休憩場としても利用する。

「おもちゃと遊びの講演会」と連動した企画を行う。

利用者の多いゲームを対象とした大会を定例開催する。

改装時に可能であれば、イベント広場と続きのカフェテリア方式の飲食店を開設できるようにする。飲食店は、休日のみ、または夕方からの営業として、NPO等に営業を委託する。

イベント広場と合わせて、年に6回、市民団体支援のためのフリーマーケットを開催する。

11. パーティールーム

教室への貸し出しのほか、以下のような利用を促進する。

- ①子育て支援プラザの分館機能として、ワークショップなどの会場とする。
- ②中高校生のクラブ活動的な場所とする。
- ③手づくりおもちゃ、手芸などの親の活動の場
- ④市民活動、子どもの参画事業のミーティングルーム

12. イベントひろば

現状と同様の人があつまり、くつろぐ場とする。

子どもを対象にしたお話会などのほか、軽い音楽などの発表の場とする。

カフェテリア方式の飲食店、または弁当等をワゴン販売のような形式で販売し、飲食ができる空間とする。

13. 売店

子どものおもちゃや絵本など、こだわりのある事業者委託する。

おもちゃやゲームの販売など、施設の事業と連動した企画を共同で行う。

■3■ 特別重点事業

■3-1■ 地域連動事業

子どもの館から飛び出し、地域と連携して子どもが育つ場所を作り出すモデル的な事業を実施する。

地域の市民センター、自治会育成会、市民が協働して行うのに適した事業として以下を選定し、このモデル事業で蓄積したノウハウを書籍にまとめ、学習会などのプログラムとして地域に伝えていくことも目指す。

1. 黒崎まち忍者、黒崎まち探検

定例イベントとして、また地域活性化のモデル事業として定期的を開催する。

黒崎商店街と連携し、商店街を子どもの遊び場とする事業。

アフタフバーバーン（北島尚志主宰）を事業顧問として招聘し、子どもと大人が遊びあい、商店街といっしょになって街を遊び場にしていく。

地元商店街を子どもの居場所とすることで、大人も呼び込み、活性化につなげる。

まち忍者、まち探検のサポーターを公募し、数回の講習で本事業の趣旨、子どもとの関わり方の基本を学んだ後、本番に臨む流れを作る。

2. プレーパークチャレンジ事業

3年の連続事業として、モデル地域の市民と連携して、プレーパークを常設開催する。

18年度は、プレーパーク講演会、プレーリーダー養成講座を実施して、プレーパークを作り出す要素を市民の中に作り出す。

19年度は、モデル地域を選定し、プレーリーダー派遣を行って、地域住民と協働して常設のプレーパークを開設する。

20年度は、モデル地域が自主的にプレーパークを運営できる道を探る。

3. 田んぼの楽校モデル校

環境系NPOとの協働事業で実施。

モデル地域に田んぼを借り、地元農家を指導員として月1回程度のペースで農作業を楽しむ。

その過程で、命、食べ物、自然、社会について考えられるようにする。

乳幼児、学童期、中高生、子育て世代、高齢者と多様な世代が一緒にでき、それぞれの持つ力が発揮される作業なので、世代間交流事業としても優れている。

NPOとの協働事業とすることで、1年目から事業実施が可能となる。

18年度は1地域で開催

19年度は1地域で継続、2地域で新規開催

20年度は3地域で継続開催し、フリーマーケットでの作物販売などで自主継続の可能性を探る。

4. ミニくろさき（ミニおりお）

ドイツのミュンヘンで毎年開催されている、子どもの国「ミニミュンヘン」を模して、「ミニくろさき」を夏休み期間中に実施する。

子どもたちが作る、子どもたちの街。

同じ八幡西区の地域通貨オリオンと連携する。

子どもたちは、参加費500円を払ってミニくろさきに入場する。

最初に職業紹介所で、ミニくろさきのまちづくりや町の中での商売を紹介され、職に着く。職種は自分で作り出しても良い。労働の対価に、地域通貨オリオンを受け取り、買い物や飲食ができる。街の中のルールは、くろさき市議会で決め、ルールを取り締まる警察官やルールを破る無法者も出てきて良い。

そういった経済や政治の仕組みを、子どもたちが現実の大人の世界を参考に、自分たちで考えながら作っていく。

企画、運営も原則的に子どもサポーターが行い、大人のスタッフ。サポーターは、子どもたちに指導を求められたときに、仕事の仕方をアドバイスするような関わり方をする。

18年度は、夏休み中の1週間で、あそびBarを開放して実施する。

19年度は、地域通貨オリオン委員会、黒崎商店街、八幡西区と交渉し、折尾か黒崎の商店街の一角、または公園等の広場で実施する。

20年度の実施は、19年度のミニくろさき（ミニおりお）の運営を担った子どもサポーターを中心にどのような開催にするか決定してもらう。

■3-2■ 学童保育、児童館、市民センター連携事業

■連携の重要性

地域における学童期から中高校生の居場所を考えたとき、学童保育、児童館の存在は極めて重要である。

北九州方式第三層の主要な拠点は、市民センターであるが、ここは高齢者や他の市民活動を含めた多様な市民の居場所でもあるため、子どもが自由にできる時間と空間は制限される。

低学年の学童期においては学童保育クラブが、学童期から高校生に到る広範囲な子どもにおいては児童館が、時間的にも空間的にも重要な居場所となる。

本館が北九州方式第一層の学童から中高校生に対する支援を担う施設と位置づけたとき、

学童保育クラブ、児童館との緊密な連携は重要度の高い事業となる。

- ・子どもと向き合う人材としての指導員の学習と相互の交流
- ・運営を担う大人の子どもに対する理解
- ・運営維持に伴う困難を解決する場

このような点に留意し、以下の支援事業を実施する。

学習会において、運営者＝館長、指導員＝スタッフと位置づけると、市民センターの人材育成事業となり、学童保育、児童館との人的交流も図れるため、連携した事業とする。

1. 共同指導員学習会主催

当館スタッフ、サポーターと、学童指導員、児童館指導員の共同学習会を本館主催で組み定例開催する。学習だけでなく、指導員どうしの交流が生まれるようなワークショップ、交流会も企画する。

2. 運営者学習会主催

学童保育の運営者は、市民団体によるものも多い。児童館も指定管理者制度により、18年度後期から民間事業者や市民団体の運営に移行する。事業運営のノウハウや子どもの居場所作りに必要なことを学びあう場として、本館主催で学習会を定例開催する。運営者どうしのネットワークを作り、学童期の子どもの居場所を共に考える会とする。

市民センターの館長にも、子どもを知る機会として参加を促す。

3. 会場提供、事業後援

学童保育連絡協議会の会議会場、総会会場、指導員学習会などに減免規定を適用して、積極的に利用していただく。駐

車場の利用なども優遇する。他に、市内の学童保育、児童館、育成会などで会場利用をしたい事業があれば、積極的に後援する。

4. 地域クラブ設立支援

本館で作られた子どもたちのクラブ活動や、中高生が地域でしている自主活動を、市民センターや児童館を利用できる地域のクラブ活動にしていく支援。

5. 児童招待キャンペーン

学校の長期休暇に合わせて、学童保育、児童館、地域育成会の児童を、引率者とともに招待する。

減免子どもパスポート（3ヶ月有効、カード実費100円）を全員にプレゼントする。引率者には、減免用家族パスポート（3ヶ月有効、カード実費100円）をプレゼント。

6. 子どもの館ニュースレター

隔月刊行

広報企画として、ニュースレターを発行する。

従来の広報は、事業予告が中心で、来場者の感想、実施された事業の感動、楽しさが伝わるものではなかった。

ニュースレター形式を取り、次回企画の案内と、実施した事業の内容、参加者の感想などを載せる。行った人は「また行こう」と思い、行ってない人は「オモシロソウ」と感じられる紙面とする。

A3両面印刷で4種作成

①全世代版（家庭、市民センター、区役所配布用）

②乳幼児版（保育園、幼稚園配布用）

②小学生版（小学校、児童館配布用）

③中高校生版（中学校、児童館配布用）

ニュースレターは、北九州市内の全戸配布を目指す。

※全世代版、乳幼児版は、支援プラザで作成。

■ 3-3 ■ 誘致事業

共催事業として、評価の高い事業を誘致する。

1. 子どものためのドラマスクール

10年前から飯塚市で実施されている子どものためのドラマスクール（山田真理子さん主宰）を本館に誘致する。

18年度は初心者コース（17回）

19年度、20年度は初心者コース（17回）と経験者コース（25回）

北九州芸術劇場で取り組んでいるドラマ創作工房は、同じ理念で生まれたものだが、市民センターを拠点に多様な世代で取り組んでいる。

本スクールは、全市の小学生～高校生の希望者を対象として取り組む事業とする。

2. 中学生ソーラン大会

「よさこいソーラン」や「ロックソーラン」として全国的なブームとなっているソーランは、北九州市在住の舞踏家 春日寿升さん（平成16年度北九州市市民文化賞）が、平成4年に北海道稚内南中学校の生徒たちと格闘しながら作り上げ

たものである。

いわば、中学生が心の叫びを表現する手段として産み出されたものである。

その真髓を指導する春日寿升さんを招聘し、3年間の事業として取り組む。

18年度は、映画「稚内発学び座」上映会、公募した中学生でのモデル事業と指導者の養成、発表会

19年度は、養成した指導者を介しての市内中学校での指導と大会開催

20年度は、さらに指導者を養成して、大会としての定着を進める。

なお、北九州市では、春日寿升さんの指導のもと、平成12年度に小倉南区北九州市田原中学校、平成15年度に小倉南区城南中学校での実施実績がある。

3. 詩のボクシング

詩のボクシングは、二人の朗読詩人がリングで言葉の力を競う、言葉の格闘技である。公式戦は、日本朗読ボクシング協会（楠かつのりさん主宰）が認定している。

平成16年には福岡県小郡市で国民大会が行われ、小・中学生大会も開かれている。

小・中学生大会では、審査員も小・中学生がつとめる。

、平成17年には高校生全国大会が山口県下関市で開かれる。

本館の趣旨と照らして、小学生大会を誘致する。

また、一般大会には15歳以上が出場でき、過去の全国大会でも高校生が優勝、準優勝を勝ち取ったこともあり、異世代交流の観点から、一般大会の福岡県大会を誘致する。

18年度

福岡大会予選日程で、1日目に楠かつのりさんの講演会とエキジビションマッチを行い小学生大会のオリエンテーションを行う。

2日目に福岡大会予選を行う。

1ヶ月後の福岡大会本戦前に小学生大会のエキジビションマッチを行い、19年度の小学生大会の呼びかけを行う。

19年度、20年度

福岡大会予選、小学生大会予選を2日に渡って行う。

1ヵ月後に福岡大会本戦、小学生大会予選を2日に渡って行う。

■4■ 事業詳細

■4-1■ 日常企画

1. こどもの館探偵団

休日 一日 3回実施 11:00、13:00、15:00スタート

所要時間 60分 一日券またはパスポート会員対象。

平日は、団体利用者を対象に随時開催。

チームを組んで、こどもの館の中で与えられたテーマを探索する。

プレイルームまたはあそびBarスタート、ゴール。

■顧問（アフタフバーバン）によるスタッフ、サポーター研修

年2回 子どもとの関わり方／プログラム作成

2. からだであそぼう！

休日 一日 2回実施 14:10、16:10スタート

平日は、団体利用者を対象に随時開催。

所要時間 40分 一日券またパスポート会員対象。

プレイルーム。

親子や子どもどうして、からだを使った遊びをする。

■顧問（矢幡道子さん、熊丸みつ子さん）によるスタッフ、サポーター研修

年4回 実習

■4-2■ 貸室事業

主催事業でホール、プレイルームとも稼働率が上がるので、貸室として使える機会は減る。

ホールは、平日昼間は、ほぼ空いているので、現在の社会保険事務所の利用を従来通りお願いする。

夕方からは、中高校生のクラブの練習や自主活動を減免して、積極的に貸し出す。

子ども、子育てに関わる市民活動の利用に際しては、積極的に後援し、減免対象として利用しやすいようにする。

■4-3■ ホール企画

1. 遊びとおもちゃの講演会

毎月1回土曜日午後開催。

有料 一般600円 パスポート会員300円、子ども各々半額。

あそび工房、あそびBarと連携した企画。

子どもの遊びやおもちゃについて、親、支援者が学ぶ講演会。

子どもと一緒に参加できる場合は同伴企画、大人のみの場合は、プレイルームで託児を行う。

子育て支援プラザと連携企画とし、両施設での講演会、ワークショップを行うことで、1回の招聘でできるだけたくさんの人に会ってもらおう。

北九州子ども劇場と共同し、本館の主催事業には、子ども劇場の会員やスタッフが数多く参加するように働きかける。

長期休暇には連続講演会「子どもとあそびスペシャルウィーク」を組む（5回）

●講師例（★は地元または地元出身講師）

①手づくりおもちゃ 木村研さん

②おもちゃデザイナー 相沢康夫さん（百町森）

③何でも箱にしてみよう！ オオクラテツヒロさん（『箱式』）★

④木のおもちゃ 伊藤英二さん（木夢）

⑤組み木おもちゃ 小黒三郎さん（U-Plan）

⑥まちはあそび場！ 北島尚志さん（アフタフバーバン）

⑦あそびは子どもの生きる力 天野秀昭さん（日本冒険遊び場作り協会）

⑧しんぶんし遊び 熊丸みつ子さん★

⑨からだであそぼう 矢幡道子さん★

⑩からだでコミュニケーション 谷瀬未紀さん★

⑪あそびうた 福尾野歩さん

⑫あそびじゅつ 新田新一郎さん

⑬劇あそび 花輪充さん

⑭絵本とあそびうた 中川ひろたかさん

⑮パパと絵本を楽しもう パパ'S絵本プロジェクト

地元講師と遠方講師を交互に招聘する。

遠方講師の場合は、講師に余力があれば、前日夜間にスタッフ、サポーター向けの講座を開いていただく。

2. キッズシアター

隔月1回日曜日午後開催。

有料 一般600円 パスポート会員300円、子ども各々半額。

子どものための演劇、音楽、落語など舞台芸術を親子で楽しむ。

北九州子ども劇場と連携する。

子ども劇場の主催事業を後援してホールの貸し出しや託児支援をする。

本館主催の事業を子ども劇場に後援してもらい、会員への呼びかけをしていただく。

3. こども講演会

隔月1回日曜日午後開催。無料。

5歳から10歳くらいの子どもの対象とした講演会。

市内の施設のスタッフや専門家に講師を依頼する。

それぞれの施設では、専門家の話をじっくり聞ける機会は意外に少ない。

子どもたちは本物の話には、とても敏感に反応する。また、専門家の興味深い話を聞いたあとに、その施設に行くと、より深い学び体験ができる。

そのような相互作用を生み出す機会とする。

各施設にイベントがある場合は、連動企画としてその施設の広報も兼ねる。

また、各施設のクラブなどがあれば、その紹介と入会受付も行う。

●講演例

①＜春の種まき会連携企画＞「夏に咲く花どんな花？」

講演者：白野江植物公園園長

3. 子育て支援・集客に向けた取り組み

②「ほーほーほーたる、こいつ！」

講演者：ほたる館館長

③<恐竜博2005連携企画>「大恐竜、日本上陸！！」

講演者：いのちのたび博物館ミュージアムティーチャー

4. カズ山本館長の野球教室→カズ山本のスポーツフリースクール

隔月1回日曜日午後開催。無料。

現在の館長の野球教室を継承する。

市内のソフトボールチーム、少年野球チームを、指導者、保護者とともに、団体招待する。

スポーツ少年団は、現代の子どもの居場所の大きな要素となっている。

ただ、競争心をあおり、過度の練習、指導の行き過ぎなどの指摘もしばしば上がっている。また、過度な練習のため、スポーツ障害を起す子どもも少なくない。指導者、父母が、子どもの心身の発達の知識やスポーツ障害に対する意識が薄いことが大きな要因になっている。小学校低学年からスポーツ少年団の中だけで放課後、休日を過ごすため、偏った生活体験になっているケースもしばしば見られる。

そこで、子どもの居場所としてのスポーツ少年団の質が向上するように、野球教室を発展させていく。

18年度は、野球教室をきっかけとして、市内スポーツ少年団とのネットワークを作る。

19年度、20年度は、カズ山本館長を校長として、「カズ山本のスポーツフリースクール」を開校する。毎回、テーマに応じた講師を迎え、心身の発達について、スポーツ障害、子どもの居場所、多様な体験などをテーマに、指導者、保護者、子どもたちが一緒に考えながら学ぶ場とする。

※カズ山本館長の意思の確認が必要。

5. 中学・高校演劇・音楽もちまわり発表会

隔月1回日曜日開催。無料。

中学、高校のステージを使用するクラブ活動（演劇、コーラス、ブラスバンドなど）の持ち回りで発表会をしてもらう。

1ステージ2時間程度の内容とし、コーラスと演劇などの組み合わせ発表も可。

18年度は、スタッフが各校に働きかけて出演依頼していく。

19年度、20年度は、発表会希望の各校クラブの連絡協議会を組織して、発表会の持ち回りを決定してもらう。発表希望のクラブが多ければ、平日夜間、長期休みの連続開催などを組みこんでいく。

ステージ練習が必要な場合は、減免等の措置で積極的に利用してもらえるようにする。

6. ゲストトーク・中高生しゃべり場

隔月1回土曜日午後開催

中高生サポーターが興味・関心のあるテーマを取り上げる企画。

ゲストからテーマに沿った話を聞き、続いて中高校生のおしゃべり隊数人がゲストを囲んで懇談する。

ゲストには、市内施設の専門スタッフやテーマに沿った市内の専門家、企業人を招く。

夏休み、春休みなどの長期休暇には、短期集中企画として平日昼間に毎週1回または1週間連続開催する。

●ゲストトーク例

①<アメリカの素顔展連携企画>「ポップアート、知った？」

ゲスト：市立美術館学芸員

②「海峡幕末青春記」

ゲスト：海峡ドラマシップ説明員

③「クスリ、怖くない!？」

ゲスト：薬物中毒に詳しい薬剤師、医師など

●短期集中企画例（夏休み、春休み）

①<仕事ってどうよ?シリーズ>

1回目：「ゲームクリエイターってどうよ？」

2回目：「獣医ってどうよ？」

3回目：「建築家ってどうよ？」

4回目：「介護士ってどうよ？」

5回目：「エンジニアってどうよ？」

6回目：「農業ってどうよ？」

7回目：「銀行員ってどうよ？」

②<語り尽くそう性と生>

1回目：「話してみようよ! エッチ・愛・カラダ」 ゲスト：産業医大 劔陽子さん

※タイトルは、劔陽子さんの著作そのまま。

2回目：「知ってる? 性感染症」 ゲスト：思春期保健相談士

3回目：「いのちの生まれる現場で」 ゲスト：助産師

4回目：「子どもを産むこと育てること」 ゲスト：妊婦、乳幼児親

7. オープンマイク

隔月1回土曜日午後～夜開催。

コーラス、謡曲、バンド、太鼓、朗読、ビデオ、紙芝居、コスプレ、仮装、トーク、お笑い、DJ、VJ、ダンス、日舞、ラップ、河内音頭、なんでもありのステージ。1グループ準備も含めて30分間、ステージを占有できる。

参加資格は、0歳～18歳の子どもを含むグループ、または子どもに届けたいメッセージのある大人のグループ。

企画、審査、運営は、子どもサポーターを含む若いサポーターに任せる。

観客は、面白かったら喝采、つまらなければブーイングでしっかり評価する。

8. バンドライブ

隔月1回土曜夕方～夜開催。

有料 一般600円 パスポート会員300円、子ども同額。

スタジオHOW! ?の利用者を中心に、バンドライブを開く。

利用者で実行委員会を作り、運営案や出演交渉、出演審査を行う。

スタッフ、ボランティアは、ホールの設備操作、安全確保を担う。

■4-4■ ホール以外の定例企画

1. 黒崎まち忍者、黒崎まち探検

偶数月は黒崎まち忍者、奇数月は黒崎まち探検を、月1回日曜日開催。

有料 一般600円 パスポート会員300円、子ども各々半額。

プレイルームまたはホールで、忍者修行もしくは探偵訓練を少ししてから、黒崎の町に出て行く。

黒崎まち忍者も黒崎まち探検のサポーターは、高校生、大人から募集し、サポーター要請講座を2回ひらいて、子どもとの関わり方を学んでもらう。

2. ゲーム大会

毎月2回土曜終日開催。

一日入場券またはパスポート会員。

あそびBarの一角を使ってカードゲーム、ボードゲームの大会を開催する。

18年度前半は、スタッフが大会の企画開催をする

18年度後半以降は、大会をきっかけに愛好者でサポータークラブを作り、クラブによる運営に切り替えていく。その際、会議費、商品代など必要な経費は、本館予算を使用する。

3. フリーマーケット

隔月1回土曜終日開催。出店料1000円。パスポート会員必須。

子ども、子育てに関わる活動をしている団体や個人、子育て中の当事者が出店する。

■4-4■ 研修・学習会

1. 指導員、スタッフ合同学習会

毎月1回夕方～夜開催。有料 300円。

学童保育、児童館の指導員、市民センタースタッフ、本館スタッフ、サポーターの合同学習会。

日曜の「遊びとおもちゃの講演会」の遠方からの講師の場合、許せば、前日夕方に指導員、スタッフ向けの研修をしていただく。

2. 運営者学習会

隔月1回平日夜開催。

有料 300円。

学童保育、児童館運営者、市民センター館長向けの学習会。

3. プレーパーク学習会

①講演会（天野秀昭さん） 1回

有料 一般600円 パスポート会員300円、子ども(13歳～18歳)各々半額。

②プレーパーク運営者学習会 3回連続講座

有料 一般1000円 パスポート会員500円 定員30名

4. プレーリーダー養成講座

野外実習を含む6回連続講座

有料 6000円 定員20名

講師 日本冒険遊び場作り協会より派遣

5. ドرامスクール

初心者コース 毎月1回～2回開催 2,000円/月（パスポート会員）

経験者コース 毎月2回開催 2,000円/月（パスポート会員）

合宿1回

プレイルームでドラマ創作に取り組み、最終的にホールで発表会を行う。

ドラマスクールの意義を伝えるための講演会も合わせて開く

講師1名、補助講師2名

募集人員 各コース 20名

6. 中学生ソーラン指導者養成講座

■18年度

●新規講座

1回3時間20回指導

有料 4000円 定員20名

合宿1回 2000円負担

講師1名、補助講師1名

■19年度

●フォローアップ講座

1回3時間6回指導

無料 定員20名

講師1名

地域の中学生の指導をしている指導者に対してのフォローアップ講座

■20年度

●フォローアップ講座

1回3時間6回指導

無料 定員20名

講師1名

地域の中学生の指導をしている指導者に対してのフォローアップ講座

7. 中学生ソーランチーム指導

■18年度

●公募チーム指導

本館プレイルームで、公募チームに対して指導する。

1回2時間12回指導

合宿1回 2000円負担

無料 定員40名

講師1名、補助講師1名 養成講座受講生 20名

■19年度

●地域チーム指導

中学校や市民センターで、地域の中学生に対して指導する。

1回2時間12回指導 8箇所開催

無料 定員40名

講師1名、補助講師1名（第一期養成指導者）

■20年度

●地域チーム指導

中学校や市民センターで、地域の中学生に対して指導する。

1回2時間12回指導 8箇所開催

無料 定員40名

講師1名、補助講師1名（第二期養成指導者）

8. まち忍者・まち探検サポーター養成講座

年間12回募集 定員 20名 無料

講座数 月2種×2講座×1回

①まち忍者サポーター養成講座#1

②まち忍者サポーター養成講座#2（#1を完了した人のみ）

③まち探検サポーター養成講座#1

④まち探検サポーター養成講座#2（#1を完了した人のみ）

以上を12ヶ月毎月実施する。

まち忍者#1、#2を完了すれば、本番のまち忍者に

まち探検#1、#2を完了すれば、本番のまち探検に

サポーターとして参加できる。

講師1名、補助講師1名

9. サポーター、スタッフ基礎講座

9-1 基礎研修

1年間に4回の研修を実施する。

①オリエンテーション研修

新新子どもプラン、子どもの館のコンセプトの理解。

施設の各コーナーの特色、事業の概要を、確認し、理解する。

安全確保について

来館者、子ども、大人双方のコミュニケーションについて

②1ヶ月研修

日々の活動から、課題や不安をあげ対応を共有する。

（主にサポーターのエンパワメントをはかる）

子どもの権利条約について学ぶ

子どもの参画の意味を考える

③3ヶ月研修

子どもから思春期までの発達についての講義

北九州市の子育て施策～地域づくりワークショップ

④6ヶ月研修

子ども、大人双方とのコミュニケーション研修

思春期の性、心、体について

多様な発達への理解

9-2 プログラム研修

①子どもの館探偵団

顧問（アフタフバーバン）によるスタッフ、サポーター研修

年3回 子どもとの関わり方/プログラム作成

18年度 子ども館探偵団研修

19年度 小学生プログラム#1開発

20年度 新小学生向けプログラム開発

②まち忍者、まち探検

顧問（アフタフバーバン）によるスタッフ、サポーター研修

年3回 地域との関わり方/大人に対する指導/プログラム作成

③からだであそぼう！

顧問（矢幡道子さん、熊丸みつ子さん）によるスタッフ、サポーター研修

年4回 実習

18年度 からだであそぼう！研修

19年度 小学生プログラム#2開発

20年度 新幼児プログラム開発

④サポーター自主研修

サポーター研修費を使ってサポーターが自主的にする研修

10. 子どもサポーター基礎講座

子どもサポーターパスポート発行時に、30分程度。

サポーターが大事にすること

■4-6 ■企画運営

1. 子どもの館ニュースレター編集部

情報発信、広報活動として、ニュースレターを年に6回作成する。

小学生版と中・高校生版の2種を作成する。

小学生版は、小学生編集サポーター、中・高校生版は、中・高校生サポーターが紙面を作る。

子どものサポーターを技術的に補佐する役目として、情報処理サポーターが入る。

2. 企画サポーター制度

主要な事業は、主に子どもサポーターが、企画サポーターとして企画、運営をします。

スタッフ、サポーターは、補佐役として子どもたちの自主性を最大限に尊重して事業を進めます。

①ふしぎ探検改革チーム

公募による5人×6組の改革チーム

小学生～高校生のいずれも参加可。

②チャレンジスポーツ改革チーム

公募による5人×6組の改革チーム

小学生～高校生のいずれも参加可。

③あそび工房サポーター

現子どもの館のボランティアスタッフを中心に構成。

新しいおもちゃの企画、おもちゃの材料製作などを月に3～4回集まって行う。

④ゲームポータークラブ会議

あそびBarのゲーム大会の常連を集めて、運営チームを作る。

小学生～高校生のいずれも参加可。

⑤しゃべり場企画委員会

公募による企画委員会を中学生、高校生で編成する。

⑥オープンマイク審査委員会

高校生～大人で構成する審査委員会。

⑦バンドライブ運営委員会

スタジオ利用者や、そのサポーターで作る。

中学生～大人で構成する。

⑧中学・高校クラブ発表会調整委員会

参加クラブの代表者で構成

⑨フリーマーケット協同組合

フリーマーケットに出店する市民団体の代表者で作る組合。

⑩ミニくろさき実行委員会

小学生～高校生の実行委員会を、大人サポーターチームとオリオン実行委員会でフォローする。

■5 ■連携事業

■5-1 ■ 市内他施設・他機関協働事業

1. ゲストトーク、子ども講演会の講師依頼

市内の施設の館長、専門家スタッフなどに、それぞれの施設の特徴に応じた講演、トークを依頼する。美術館や博物館などでは、特別展などと連携した企画とする。

ホール企画講演者例参照

2. 子ども関連事業スタッフ・サポーター派遣

市内の施設の事業、イベントに積極的に子どもの視点を入れてもらうため、講師、イベント補助の事業サポーター、託児スタッフを派遣する。

■5-2 ■ 他機関事業誘致

生活支援課のポリオ接種のように、会場に苦勞している子ども、子育てに関する事業を誘致する。

その際、利用者にとって最大の障害となるのがコムシティの駐車料金である。

そのために、駐車料割引券を利用者に渡す。

この事業によって、普段、本館に足を運ばないような親子の来場の機会ができる。

1時間程度で終わる事業と、2時間～3時間かかるパパママ教室のような事業を想定している。

■5-3 ■ 相談事業

本館は、思春期の子どもたちの居場所となる事業を意識的に実施している。

そのため、学校や家庭に居場所がない子どもたちが滞留する可能性が高い。

これは意図通りといえるが、同時に思春期にまつわる様々な問題が表出する場ともなる。

特に男女の身体の悩み、妊娠・性感染症など性にかかわる問題、摂食障害・自傷行為など心に関わる問題、不登校・暴力・薬物依存の問題（タバコ、シンナー、アルコール、ドラッグなど）が表出してくると考えられる。

これらの予防として、また問題が発生した場合の適切な対応のため、性や体の問題の専門家である思春期保健相談士、心の問題に強い臨床心理士、ソーシャルワーカーなどの専門家を相談員として配置し、市内の産婦人科、泌尿器科、精神科、心療内科など医療機関との連携、子ども総合相談センターなど専門機関と連携することで、問題の予防、早期対応を心がけ子どもの健やかな育ちを支援する。

相談室は、休憩室かスタッフルームの一部を区切って作る。

思春期の子どもたちが、特に何もなくてもふらりと入れるような雰囲気の場所とする。

相談員との日常のふれ合いの中から異変に気付いたり、時間を掛けて築いた信頼関係から心の奥底に秘めたものが出てくるような対応を取る相談室とする。

常に子ども総合センターと緊密に情報交換をし、心身に関わる重要なケースでは、子ども総合センター、医療機関に引き継ぐ。

開設時間 平日16:00～21:00（閉館まで）

休日13:00～21:00（閉館まで）

4～8名程度の非常勤専門職スタッフを登録しておき、ローテーションで勤務する。

■5-2■ 民間・市民活動連携事業

1. 印刷支援

NPOサポートセンターの利用の強い動機となっているのが、市民活動に必要なチラシや資料、冊子などの印刷である。

本館では、A3まで対応、2色同時印刷機能のある簡易印刷機を備え、低価格で提供する。

印刷料金 白黒印刷 原版1枚 32円 印刷 0.2円/枚

2色印刷 原版1枚 50円 印刷 0.4円/枚

ただし、利用対象は、市民活動や中・高校生、大学生などのクラブ活動や自主活動で、利用者が本館のパスポート会員であることが条件。

また、当館および支援プラザの情報広告を規定の大きさで入れてもらえれば、印刷料を無料にし、駐車料割引券を1枚提供する。

2. 活動会場支援

市民活動の総会や講演会などの会場にホール、中規模の講演会、会議などにプレイルーム、小規模のミーティングにパーティールームを貸し出す。

当館か他の行政の後援がある場合は、利用料減免。

後援がとれてない利用については、利用申請内容を検討したうえで、当館が共催または後援する。

また、この場合も団体スタッフや利用者の駐車料金が大きな問題となるので、利用内容に応じて駐車料金の割引券を出す。

3. カフェテリア、ワゴン販売委託

イベント広場後方の厨房をカフェテリア厨房として、年間契約で貸し出す。

また、イベント広場後方に4台のワゴンを設け、パン、弁当などの販売用に2ヶ月単位で貸し出す。

双方とも、開店は休日の10:00~17:00とする。

小倉北区の女性起業支援コーディネートのNPO「ヴィーナスワン」と協働し、テナント料を格安にして起業を促進する。

①カフェテリア厨房 1店舗 2000円/日×開店日数 年単位の契約とする。

調理した飲食を提供できる。

②カフェテリアワゴン 4店舗 1000円/日×開店日数 2ヶ月単位の契約とする。

コーヒー等の販売と、パン、調理済みの弁当等を持ち込み販売する。